大阪公立大学
Osaka Metropolitan University
学術情報リポジトリ

# ぷらっとシネマ　移民の恐怖とギャングの悲しみ『シン・ノンブレ』（C・フクナガ監督）



| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2017-06-29<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 萩原, 弘子<br>メールアドレス:<br>所属: |
|---|---|
| URL | http://hdl.handle.net/10466/15471 |

ぷらっとシネマ

萩原弘子



# 移民の恐怖とギャングの悲しみ
## 『シン・ノンブレ』（C・フクナガ監督）

メキシコ南端の街タパチュラで、テキサス行きの貨物列車を待つ人々がいる。列車の屋根に無賃乗車して国境を越え、アメリカで仕事に就くためだ。ホンデュラスに自分の未来はないと見たサイラは、父、叔父とともに徒歩でここまで来た。10代の女性サイラには過酷な旅路だ。まずはアメリカに入国し、北上して親戚のいるニュージャージーをめざす。列車を待つ人の群れのなかで、父が言う。「たどり着ける者は半分もいないんだ」。

あたり一帯を支配しているのはギャング団、マラ・サルヴァトルチャ組だ。殺人、強盗、裏切り者の粛清で手柄をたて、男気と忠誠を証明するとタトゥーが許される。圧倒的カリスマとして君臨するのは全身タトゥーが不気味なリル・マゴだ。マゴに認めてもらおうと懸命なカスパーは、組員の拡大に努め、まだ笑顔があどけない12歳のスマイリーにギャングの掟と暴力を教えこんでいる。

ギャング団の資金源のひとつが、不法移民を狙っての追いはぎだ。カスパーの物語とサイラの物語が出会うのは、疾走する貨物列車の屋根の上。マゴ、カスパー、スマイリーの3人が銃で脅しながら、移民たちのなけなしの金を強奪していく。マゴが若いサイラに目をつけ、乱暴を働こうとするのを見て、カスパーはマゴを列車から突き落とし、殺してしまう。数日前、恋人マルタをマゴに殺されたときはなにも言えなかったカスパーが、はからずも果たした復讐だった。助けてくれたカスパーにサイラは心惹かれていく。

カスパーの裏切りはすぐにギャング団の知るところとなる。通報したのは、カスパーが可愛がっていたスマイリーだった。沿線のギャング団に伝令が飛び、カスパーを消そうと各地で彼らが待ち受けている。もう逃げられない。カスパーはサイラを巻きこみたくないが、サイラは恋心を抑えられない。二人の危険な逃避行が始まる。

カスパーは生き延びられるか。サイラ一家3人のうちニュージャージーにたどり着けるのは誰か。

中米から陸路でアメリカをめざし、危険を覚悟で国境を越えようとする人の波は絶えることがない。その現実に、アメリカ人はたいして関心を払わない。アメリカ人監督ケアリー・フクナガの製作動機となったのは、2003年のある事件だという。80人の密入国者を載せたトラックが、発覚を恐れてかそのまま廃棄され、19人が死亡した。彼らが直面した恐怖はどんなものだったろう。その恐怖を表現したいというフクナガの思いは、まちがいなく本作に結実している。

恐怖のひとつがギャング団であり、その単純でない描写は本作を厚みあるものにしている。暴力シーンの凶暴さは半端でなく、私はなんども目を覆った。しかしフクナガは、『グラン・トリノ』のイーストウッドと違って、暴力集団しか生きる場がない者を、ただのクズとして描いてはいない。独特の儀式と規律で結束を固め、忠誠には守護が、功績には褒賞が与えられる。なにも持たない最下層の者には、自分が求められ、認められていると感じられる数少ない場所だ。むろんその現実は、暴力による威嚇と監視、独裁と裏切りと同士討ちの日々である。それでも、底なしの貧困があるかぎり、暴力と犯罪を糧に生きるしかない者は後を絶たず、ギャング団は再生産されていく。カスパーは、その哀しい暴力の連鎖のなかでしか生きられなかった。刺客に追われる彼が、目尻に入れた涙のタトゥーを爪でひっかき落とす場面は、彼の深い悲しみをよく伝えている。

実際のギャング団は、南から来る不法移民に対する「徴税権」を握っており、カスパーたちがした追いはぎ強盗よりも重要な資金源となっているという。貧しい者から漏れなく「徴税」する恐怖のシステムを、不法移民が回避することはむずかしい。しかしフクナガは、「移民ｖｓギャング団」という単純な構図をきっぱり拒否している。どちらも、貧困のなかであがく名もない者たち（シン・ノンブレ＝名なし）だ。

日本の観客には、メキシコとそれ以南の中米諸国の関係はわかりにくいかもしれない。中米諸国の人々の出稼ぎ先は、まずは中米の大国メキシコであり、アメリカはさらにその先にある夢の国だ。アメリカに行くなら、メキシコ人は国境までバスで行く。貨物列車で移動するのはたいていメキシコ以南の人々だ。メキシコの貧困の下にホンデュラスやグァテマラの貧困があえぐ。重層的貧困のなかで、貧しい者が貧しい者から奪っている。「シン・ノンブレ」が奪いあうことなく生きられる世界は、いつ到来するのだろうか。

（メキシコ・アメリカ、2009年、96分）